

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(1年計画の1年目)

1. 研究課題

〈時間-生〉芸術の研究--ボードレーと其の受容

Study of time and life in modern art – Baudelaire and his legacy acceptance

2. 研究代表者氏名

小倉康寛

Yasuhiro Ogura

3. 研究期間

2021年4月-2022年3月(1年目)

4. 研究目的

シャルル・ボードレー (Charles Baudelaire, 1821-1867) は、批評家として「決して間違えることがなかった」。ヴァレリーが宣言したように、『悪の花』の作者は20世紀初頭、詩学、芸術論、モダニズム論などの分野で、近代の起点という意味での「権威」になる。その後の研究史を振り返れば、こうした描き方は、否定と肯定の繰り返しだった。今後、彼の位置はどのようになるのか。本研究は時間という、多くの作家に共通する根源的なテーマを視角に、各作家と我々が、ボードレーとどのような距離にあるのか、捉え直しを図る。

本研究は発表者が、(1)時間をテーマにボードレーの作品を論じた上で、(2)バンヴィル、マラルメ、ドビュッシー、ヴァレリーにおける受容や影響関係を考察していく。(3)また20世紀の哲学で、詩の果たした役割をも論究する。本研究は時の観念という人間の生死の根幹にあるものが、作家ごとに異なることを作品の分析から理解していく。こうして浮き彫りになった〈時間-生〉の相対性を手掛かりに、本研究は、ボードレーの現代的な位置を見定める。

Charles Baudelaire (1821-1867) was a critic who “never made a mistake.” As Paul Valéry declared, in the early 20th century, the author of “The Flowers of Evil” became an authority in such areas as poetics, artistic theory, and modernist theory, in the sense of representing the starting point of the modern era. Looking back through the history of subsequent research, this schema was repeatedly denied and affirmed. How will Baudelaire’s ideas be perceived, going forward? This research focuses on the theme of time, which is common to many artists, and reconsiders the distance from Baudelaire to each of us.

We will discuss Baudelaire’s work and then consider its acceptance and

influence in the works of Banville, Mallarmé, Debussy, and Valéry. Also, we will argue that poetry provides valuable clues to the philosophy of the 20th century. Through this research, we will gain an understanding from analysis of the works that the idea of time, which is the basis of human life and death, differs from artist to artist. Using the relativity of "time-life" that has been highlighted in this way as a clue, this study determines the modern position of Baudelaire.

5. 本年度の研究実施状況

本研究班はボードレール生誕 200 周年記念シンポジウムを組織・開催することを目標に、班員相互で実施にむけた非公式の打ち合わせを重ね、2021 年 12 月 18 日、19 日のふたつにわたって「ボードレール生誕 200 周年記念——〈時間-生〉芸術の研究——ボードレールとその受容」を開催した。近代における時間概念について再考しながら、ボードレールの現代における意義を明らかにする一方で、その影響の広がりを後続の作家たちや、音楽や哲学といった他ジャンルのうちに探っていく試みは、シンポジウムの報告と議論によって一定の成果をあげることができた（詳細については「10_最終報告書用：研究成果の概要」を参照）。

6. 本年度の研究実施内容

2021-12-18 ボードレール生誕 200 周年記念、〈時間-生〉芸術の研究——ボードレールとその受容 『人工楽園』における時間と空間 発表者 清水まさ志 鳥取大学 タイムマシン・ボードレール 発表者 廣田大地 神戸大学 ボードレールにおける『現代の表現』とジャーナリズム 発表者 佐々木稔 愛知学院大学 渴きと時間——分裂と『悪の花』のカラージュ 発表者 小倉康寛 南山大学 ボードレールとヴァレリー——「蛇」をめぐる変装 発表者 鳥山定嗣 名古屋大学 司会 廣田大地 神戸大学 司会 坂巻康司 東北大学
2021-12-19 ボードレール生誕 200 周年記念、〈時間-生〉芸術の研究——ボードレールとその受容 ボードレールが終わったところから始める：マラルメの文学的〈生〉について 発表者 中畑寛之 神戸大学 瞬間と疲労——初期レヴィナスにおけるボードレール解釈 発表者 服部敬弘 同志社大学 「万物照応」、ドビュッシーとボードレールの時間 発表者 青柳いづみこ 大阪音楽大学名誉教授 多様性と「生命力の移動」 発表者 平野啓一郎 作家 司会 坂巻康司 東北大学 司会 森本淳生 京都大学人文科学研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績

「ボードレール生誕 200 周年記念、〈時間-生〉芸術の研究——ボードレールとその受容」
(2021 年 12 月 18 日、19 日、人文研大会議室+Zoom ウェビナー)

8. 研究班員

所内

森本淳生

学外

小倉康寛(南山大学外国語学部フランス学科)、廣田大地(神戸大学大学院国際文化学研究科・国際文化学部)、鳥山定嗣(名古屋大学大学院人文学研究科人文学専攻文芸言語学)、服部敬弘(同志社大学文学部哲学科)、佐々木稔(愛知学院大学)、清水まさ志(鳥取大学地域価値創造研究教育機構 エクステンション推進室)、中畑寛之(神戸大学大学院人文学研究科・文学部)、青柳いづみこ(大阪音楽大学)、平野啓一郎

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	1	2			1		4			2	
国立大学	5	5		2			10		4		
公立大学											
私立大学	4	4		3			8		6		
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関											
その他 ※	1	1					1				
計	11	12 (0)	0 (0)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	23 (0)	0 (0)	10 (0)	2 (0)	0 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

12. 次年度の研究実施計画

なし

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

ボードレール・シンポジウムは成果論文集で刊行することを予定しているが、これは2022年度以降、関係者と相談を重ねて是非実現できるよう努力したい。